

門真市子どもの未来応援ネットワーク事業情報誌 vol.2

平成30年6月発行

●応援団員養成出張研修を実施中

地域における多くの見守りの目を確保するため、地域の集まりや各種団体の会議等に赴く「出張研修」を実施しています。ご希望の方はこども政策課までお問い合わせください。

お問い合わせの際は下記のことをお尋ねします。

①希望日時

(2～3候補日時)

②実施会場

(依頼者様でご準備ください)

③参加人数

(10名以上)

申込先 こども政策課 ☎06-6902-6095

●校別応援団登録者数

中学校区	登録者数
第二中	96
第三中	174
第四中	123
第五中	127
第七中	107
はすはな中	147
企業等	95
その他・市職員	99
合計	968

(平成30年6月20日現在)



応援団員の証
となるバッジ

●子どもの未来応援ネットワーク事業報告会を開催

昨年10月から本事業が開始され10カ月が経過しました。

7月末で大阪府モデル事業の委託期間が終了し、8月からは門真市の独自事業となることから、「**リスタート**」を合言葉に報告会を実施します。

内容は、推進員からのケース等の事例発表を行い、その後には見守り活動を更に活発化させるための意見交換や交流を深めるためにワークショップも開催します。

日時：平成30年7月26日(木) 19:00開会 (開場18:30)
会場：南部市民センター ホール
定員：100名(先着順)
申込方法：7月2日(月)から下記へお電話ください(平日9:00～17:00)
子どもの未来応援チーム ☎06-6902-6098

スケジュール：

時間	内容
19時00分	開会 門真市長挨拶 大阪府福祉部長挨拶
19時10分	子どもの未来応援推進員よりケース事例の発表
20時00分	ワークショップ 大阪人間科学大学 山中徹二 助教

●ケース事例をご紹介します

応援団員から情報提供があったケースの一部をご紹介します。

提供内容	「遅い時間に登校している子どもがいる。」
チームの対応	<p>応援団員が声をかけたところ、本児は遅くまでゲームをしていて朝起きられなかったとの事。</p> <p>情報収集の結果、親が複数の子どもを育てるため、一定の収入が必要なことから、早朝から夜遅くまで仕事で忙しく、子どもと関わることができていないことがわかった。</p> <p>そのため、本児の生活リズムが乱れ、朝は親が送り出すこともできないこともあり、常態的に遅刻していることがわかった。</p> <p>今後の対応として、学校と協力し、子どもや保護者へのアプローチを行い、必要な支援策につなげていく。</p>

提供内容	「毎日同じ服装をしている子どもがいる。」
チームの対応	<p>応援団員から毎日同じ服装をしている子がいるとの情報が入り、情報収集を行った結果、親が複数の子どもを育てるため、一定の収入が必要なことから、早朝から夜遅くまで仕事で忙しく、家事をする時間もないことから、服装も同じになりがちであり、学校への送り出しもできず、子どもの遅刻が常態化していた。</p> <p>学校は親と連絡がつかない状態が続いているため、「子どもの未来応援推進員」が親への面談を試みた結果、親の了解を得て、本児らの登校支援を続けると同時に、本家庭に対して経済的支援を含めた必要な支援策を行政機関や学校と検討を行っている。</p>

●活動事例をご紹介します

1. 第四中学校区子どもの未来応援団連絡会定例会の開催

「第四中学校区子どもの未来応援団連絡会」設立後、初めての定例会が6月19日に開催されました。



第四中学校に会場をご提供いただき、40名の応援団員が参加し、年間計画の承認や校区内の事例発表などを行いました。

また、2月の連絡会設立会時において「子どものどこをみればいいのか、わからない」との意見が出されたため、「みまもりシート」を作成するためにワークショップを行い様々な意見が出

されました。出された意見を精査し、完成した「みまもりシート」を同封しますので、是非、見守り活動に役立ててください。

2. 子どもの未来応援団養成研修（出張研修）

①門真市清掃協議会

6月6日に同協議会に所属する清掃事業者（本市の一般廃棄物収集運搬許可業者）に子どもの未来応援団員養成研修を実施しました。



同協議会は門真市内の事業所等の一般廃棄物を収集運搬する清掃事業者の8社で構成されています。

同協議会所属の各社は、夜間から早朝にかけて廃棄物を収集運搬する為、見守り活動として人目につきにくい時間帯をカバーしていただき、子どもや保護者等のシグナルを早期にキャッチし、支援等へとつなげていくことへの一助として協力いただくこととなりました。

②ヤマト運輸株式会社（門真支店、門真南支店）

6月4日、11日に門真支店及び6月11日、15日に門真南支店の従業員及びセールスドライバーに子どもの未来応援団員養成研修を実施しました。



同支店には約50名のセールスドライバーが所属しており、早朝から夜間にかけて約30台の集配車が市内を走行し貨物の集配業務を行っています。

地域を熟知したセールスドライバーならではの見守り活動により、子どもや保護者等のシグナルを早期にキャッチし、支援等へとつなげていくことが期待されます。

●各中学校区の活動状況の紹介

中学校区	推進員	活動内容
第二中	米村 原田	学校と連携してケース対応を行うとともに、地域で登下校の見守りをされている方と情報交換を行うなど、地域での見守りが活発化されるよう取り組んでいる。
		ケース数：17
		出張研修実施：大和田校区青少年育成協議会
第三中	瀬戸 松本	校区内に3か所のこども食堂があり、その運営は応援団員が行っており連携を深めている。 また、こども食堂から提供される情報をもとに学校・幼稚園・保育園との連携を行い、ケース対応を行っている。
		ケース数：13
		出張研修実施：柳町園、古川園、門真小放課後児童クラブ
第四中	若松 大林	30年2月に「子どもの未来応援団連絡会」を設立し、第1回定例会を6月19日に第四中学校にて開催した。 連絡会で「見まもりシート」を作成し、他校区の応援団員にも共有した。
		ケース数：14
		出張研修実施：脇田保育園 砂子小、脇田小放課後児童クラブ
第五中	中野 谷名	登校支援を継続的に実施しているケースがあり、対応方法について社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーと協議を行い地域資源等の活用方法について検討を行っている。
		ケース数：11
		出張研修実施：第五中学校地域会議
第七中	伊藤 満永	応援団員の所属するNPO法人が、畑での耕作を通じて保育園等の子どもと交流を深める活動を行っており、当該法人と情報交換を行うなど、見守り活動が活発化されるよう取り組んでいる。
		ケース数：6
		出張研修実施：うちこし保育園、きたじま保育園 五月田小、二島小放課後児童クラブ
はすはな 中	寺下 宮崎	応援団員が運営しているこども食堂へ推進員も参加し、連携を深めている。日々の連携により支援を要する子どもの情報がスムーズに寄せられるようになり、ケースに対して迅速な対応を行うことができている。
		ケース数：8
		出張研修実施：みらい小放課後児童クラブ、

*出張研修実施箇所は抜粋

*ケース数は平成30年6月20日現在